

## 1. 単元名 「5組の紹介をしよう」 ～自分の成長から考える「5組のいいところ」～

### 2. 単元の目標

- ・他校のホームページやWeb上のパンフレットなどを検索し閲覧することができる。 (知識・技能)
- ・ICT端末での写真撮影の仕方や発表のためのデータの扱い方の基礎を知り、発表用のデータを作成できる。 (知識・技能)
- ・5組での自分の楽しみや成長を振り返りながら「5組のよいところ」について考え、紹介したいことについて発表したり写真におさめたりすることができる。 (思考・判断・表現)
- ・自分の成長を発表し、他の生徒と共有することで互いに認め合い、それを発表し伝えるという目的意識を持って活動することができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

### 3. 単元について

#### (1) 教材観

本単元は、特別支援学校学習指導要領・中学部の各教科「職業・家庭」のなかでも、在籍生徒の発達や理解の実態から「2段階」の内容を扱うものである。「職業分野」の内容は大きく分けて次のようになっている。

A 職業生活、 B 情報機器の活用、 C 産業現場等における実習

この中でもこの単元は、情報機器の活用の分野であり、将来の社会生活のみならず、今の学習活動などにおいても必要である情報機器の扱いについて学ぶものである。

まずは情報機器の基礎的な操作の仕方やルールなどを知り、扱いに慣れることを目指す。そして、体験したことや自分の考えを情報機器を使って表現することができるようにすることを目指すものである。つまり、知的障害の有無にかかわらず、生活に必要なツールとして使い慣れ、自分と社会の接点やより充実した生活のために活かすことができるようにするものであると位置づけた。

使い方の習得だけでは、学習活動のなかで目的意識や意欲が維持しづらく、また他教科や他の活動、生活や地域などへつながりづらくなるため、内容はより具体的なものを設定し、実践的・体験的な学習活動を展開したいと考えた。

さらに、知識や技能を習得するだけでなく、それを生かしながら、生じた課題の解決を経験することや改善することを目指して、客観的な評価や比較、対話などにも取り組みたい。

具体的内容については、知的障害特別支援学級（以下「5組」）に在籍する生徒が、自分たちの後輩にあたる次年度特別支援学級入級生に対する見学説明会で、「5組のいいところ」として、何をどのように紹介するか、を考え写真撮影や動画作成をした取り組みである。

生徒はそれぞれに、例えば、見る側の視点に立つことの発達的な難しさや、ことばで表現することについて障害に起因する制約なども、様々な困難さを抱えている。よってこの単元でも、自分が伝えたい5組のよさについて、他の生徒とは違ってよく、尊重されるものであるという安心感を抱けることが大前提となるようにし、互いに認め合うことを目指すという潜在的効果もねらいたい。

#### (2) 生徒観

5組の生徒らは、様々な障害特性や発達段階にあり、それぞれに発達のアンバランスさや興味の偏りやそれぞれの敏感さなどがあるため、学校生活のなかで“ぶつかり合い”や話し合いなどの体験を経て、考え合い、許し合い、認め合うという具体的な経験を積んでいる。

5組では、各教科の授業をそれぞれの理解力にあった学習グループで学び、行事の縦割り班などでは先輩の活躍に憧れを抱きそれをモデルとして目標を設定して努力し、学級では同学年のなかまとして最初に自己開示をし、かけがえのない友だちとして様々な行事や日々の学校生活を共にしている。

3年生の後半からは、卒業に向けて自分の生い立ちや成長を振り返り「私の歴史」として綴ったものまとめる。しかしそれは急になされるものではなく、年間通して設定した保護者などへの発表や競い合う大会、互いに楽しむ会などで、少しずつ自分の成長を実感できるようにしている。

また、教師主導ではなく生徒が企画し運営する機会も設け、「主体的に考え行動する」基礎的な実体験が将来を拓く重要であると考えている。

こういった5組のカリキュラムで学ぶ生徒らが、自分たちもそうであったように、小学6年生の児童に「附中5組に入りたい」と感じて欲しい、つながるなかまを増やしたいというねがいを持って本単元に取り組む意義は、これまでの学びを発展させるという意味で大きいものになると考える。

### (3) 指導観

本単元に取り組むにあたって、「あなたが好きな5組の空間、場所」を問われれば、それぞれに答えることはできるが、共感できない意見に出会うことも多いことが予想される。そのためまずは、その意見のどれもが尊重されることを納得し、安心して考え、自信をもって発表させたい。

そして、自分たちがそうであったように、見学会に来て「この学校に入りたい」と思ってもらえるように生徒も関わってみよう、という提示をし、課題を明確にさせる。つまり、5組のいいところを伝える、発表するという役割を担うことを理解し、意欲的に取り組めるようにする。

ただ、たとえば「学校紹介」が一般的にどのようになされているかはあまり知らないため、情報端末を活用して、「入学したくなるような学校の紹介はどのようになっているか」を自由に検索させる。

続いて「ではどのようにすればうまく伝わるか」と段階を踏めば、「見る側」と「見せる側、つくる側」という、相対する立場を自在に行き来することが発達的に難しい段階にある生徒らには行き詰まりが予想される。そのため「これだけは伝えたいこと」を明確にして、「どうしてもそれを伝えたい」という願いを強くしてからの作業としたい。

このような「思いを伝えること」と並行して、基礎的な機器操作も習得することも展開前半の重要な内容ではあるため、たとえば「いろいろ思いながら撮影しながら操作に慣れる」「とりあえず検索しながら覚え、気に入った学校紹介に出会う」ことになる。時にはうまくいかずイラ立つこともあるが、いわゆる「失敗」はダメなことではなく「その方法はうまくいかないことがわかってよかった」として、作業や体験の機会を多く保障したいと考え計画した。

発表については、自分の考えを言語化することは大変難しく、もどかしさを感じる生徒もいるが、映像を介して自分の思いや経験が言語化されやすくなり、また共有されやすくなることにより、互いに学びは深まると考える。

### (4) ESDとの関連

#### ・本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

多様性…様々な見え方、感じ方がありそれらが尊重されなければならないということ

相互性…知らせたい人、発信する側だけの視点ではなく、受け手がいて、双方の経験をしながら、自分の成長を整理したり、発信したりできるようになれるとよいということ

連携性…自分が成長した「場」や「経験」のなかにさまざまにつながりがあり、今後もそのつながりの中に生きていくということ

#### ・本学習を通して育てたいESDの資質・能力

多面的・総合的に考える力(システムズ・シンキング)

インターネットやパンフレットは「見るもの」という受け手の側から、「見せる」「つくる」側の視点に立ち、その意義や方法について知る。

その作業過程において、なかまの様々な感じ方に触れ、互いをより尊重できる感覚をもつ。

コミュニケーションを行う力

お互いに写真や説明文を見合い、共通点や相違点などについて話し合う。

見せる、説明するなど様々な方法を使って、伝えることができることを知り、実行する。

つながりを尊重する態度

自分が良いと感じたことを他者と共有しようとし、また他者が良いと感じていることを共有しようとする。

進んで参加する態度

他の生徒の発言や発表を参考にしたり、励まされたりしながら、自分なりの観点で活動しようとする。

#### ・この学習を通して育てたいESDの価値観

人権・文化を尊重する。

特別支援学級で学ぶことに誇りを持ち、堂々とその良さを伝えることで、学ぶ場や権利が保障されることにつながる。

幸福感に敏感になる、幸福感を重視する。

自分が良いと感じたことを具体的に表現する楽しさと、それを共有し合える喜びを味わい、さらによりよい暮らしをつくる担い手となることは、障害の有無にかかわらず大切なことである。

#### ・達成が期待されるSDGs

4. 質の高い教育をみんなに：すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

4.5 2030年までに、教育におけるジェンダー格差を無くし、障害者、先住民及び脆弱な立場にある子供など、脆弱層があらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセスできるようにする。

4.a 子供、障害及びジェンダーに配慮した教育施設を構築・改良し、すべての人々に安全で非暴力的、包摂的、効果的な学習環境を提供できるようにする。

16. 平和と公正をすべての人に：持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する

16.7 あらゆるレベルにおいて、対応的、包摂的、参加型及び代表的な意思決定を確保する。

## 4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①他校のホームページやWeb上のパンフレットなどを検索し閲覧することができる。 ②Chromebookでの写真撮影の仕方や発表のためのデータの扱い方の基礎を知り、発表用のデータを作成できる。	①5組での自分の楽しみや成長を振り返りながら「5組のいいところ」について考えることができる。 ②紹介したいことについて発表したり写真撮影したりすることができる。	①自分の楽しみや成長を想起し、他の生徒と共有することで互いに認め合い、それを発表し伝えるという目的意識を持って活動することができる。 ②よりよい学級生活をつくることの意味や自分が参画することについて考えようとする。

## 5. 単元の指導計画（全6時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1	自分の思う「5組のいいところ」について出し合う。 ・考えたことないな ・どんなことでもいいの？ 学校見学説明会で「生徒目線」の5組の良さを伝える計画があることを知る。	・内容にかかわらず遠慮せず意見を発表させる。 ・意見発表が十分でなくても、まずはその内容が伝わったことや「発表できたこと」が評価されることをわからせる。	ウ① イ①

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくらが考えるのか。</li> <li>・できるかな、でもやってみたいな。</li> </ul>		
2	<p>他の学校の紹介について調べる。 (写真や文章の様子、気に入ったもの、疑問など) ・写真がたくさん載って</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・短い文がわかりやすい</li> <li>・入学したくなるなあ</li> <li>・だれが作っているのかな</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Chromebookで検索する方法を知る</li> <li>・抽象的な「学校のよさ」はどういったものを指すのかについて学校紹介を通してわからせる。</li> <li>・具体的に・写真や動画など映像があるとわかりやすいことに気付かせる。</li> <li>・応用としてキャッチコピー等にも気付かせる。</li> </ul>	ア①
3	<p>「5組のいいところ」について考える。 (通常学級にはなく5組にはあって気に入ったことや自分が成長した活動、安心できる場所等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分だけの意見ではなかった！</li> <li>・たしかにこれが「いいところ」かも。</li> <li>・同じように感じる小学生もいるかも！</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Chromebookで撮影する方法を知る。</li> <li>・撮影しては画像を確認し、何度撮り直してもよいとするが、どのように取り直したいか、可能なら理由を述べさせる。</li> <li>・撮影したものについて自信をもって意見発表をさせる。可能な生徒にはその理由も述べさせる</li> <li>・共感できる意見があれば、自分の意見や理由を重ねて深めさせたり、そうでない意見には質問したりさせてながら「意見を尊重する」という体験をさせる。</li> </ul>	ア② イ① イ② ウ①
4	<p>説明会に向けて、発表できるようGoogleジャムボードの資料をつくる (写真データをはりつけ、伝えることばを入力)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これを見て入学したいと思って欲しいな。</li> <li>・自分の思いが伝わるといいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Googleジャムボードの操作を知り、使えるようにする。</li> <li>・操作がわからなければ、何をどのようにしたくて、何に困っているかを質問できるようになる。</li> <li>・お互いの作品を見て、工夫している点や自分はそうしなかったことなどに気付かせ可能ならば修正させる。</li> </ul>	ア② ウ②

本事例を基礎にして、内容や方法を発展させて取り組んだり、プレゼンテーションの練習に活用したりするなど、今後さらに発展的に実践したい。

例えば、自分の成長の振り返りやその発表、特別支援学級の行事の紹介、ある行事のまとめや報告など、保護者や後輩に伝えたり、残したりするために活用できる場面が考えられる。

この実践を振り返ると、知的障害特別支援学級での取り組みが様々な配慮や制約によって知らせづらいついて感じていた面を、生徒自身のことばや写真で願いや実感をより伝えやすくなった印象がある。

今後、メディアリテラシーという観点も含めて取り組みながら、障害の有無にかかわらず情報発信することや社会参画するといった大きな方向性をもって引き続き取り組んでいきたい。